

熊本大学広報誌

熊大通信

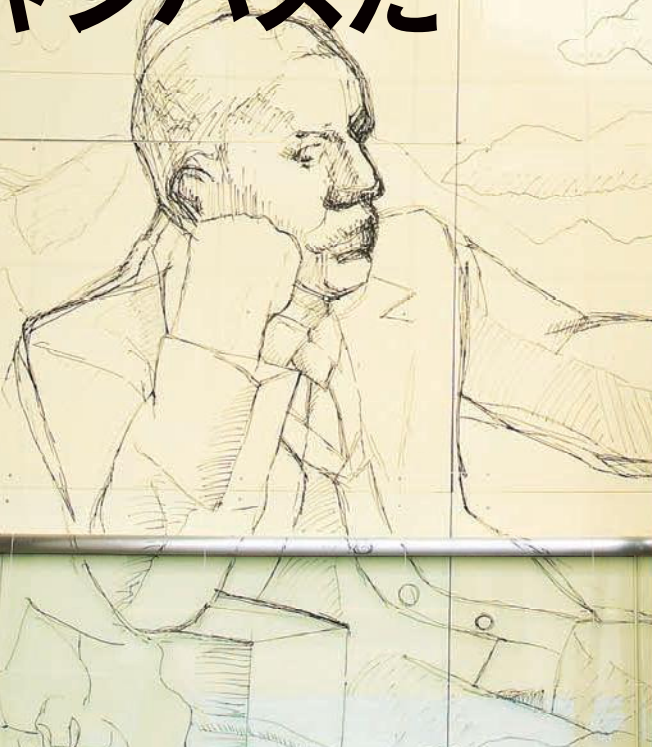
vol.

33

2009 SUMMER

特集

まちはボクらの キャンパスだ



Kumamoto University

国立大学法人
熊本大学



SCENERY OF CAMPUS キャンパスの風景

工学部百周年記念館

工学部創立100周年を記念して、工学部同窓生、工学部関係者、企業からの寄付により平成16年に完成。講演会や演奏会などに幅広く活用されている



熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会
矢加部 和幸／委員長・政策創造研究教育センター
溝渕 園子／文学部
河野 順子／教育学部
田村 耕一／法学部
高宗 和史／大学院自然科学研究科
田中 智之／大学院自然科学研究科
太田 訓正／大学院医学薬学研究部
首藤 剛／大学院医学薬学研究部
西村 兆司／企画部広報戦略主幹

【制作】 株式会社カラーズプランニング

CONTENTS

- 03 特集 まちはボクらのキャンパスだ
- 09 研究室探訪 未来のロボットは私たちがつくる。
原田研究室
- 11 特集 高まるエイズウイルスの病原性
現在のワクチン開発戦略に一石
エイズ学研究センターウイルス制御分野
- 13 国際交流 対談 若い時代の留学は“一生の宝”
教育学部 4年 村上明子／副学長（国際交流担当） 古川憲治
- 15 卒業生ジャーナル
- 17 Information

特集

まちはボクらのキャンパスだ

熊本大学は地域と連携を図るために、さまざまな取り組みを行っています。大学の研究や技術などを地域に生かすことで、新しい可能性に対する期待も高まっています。今回は、その取り組みの一部をご紹介します。

学生の才能が開花した 全長32mのアート空間 教育学部美術教育 松永研究室

街中に巨大壁画が出現！
学生たちの”くまもとアート”

熊本市の中心部・辛島町。熊本城を望むこの場所に、縦3・5メートル、全長32メートルもの大きな壁画が誕生しました。描かれているのは、熊本名物や熊本にゆかりのある偉人、そして、熊本の伝統的な名花「肥後六花」。色鮮やかな壁画は街に彩りを添え、多くの歩行者の目を楽しませていきます。

この壁画を描いたのは、教育学部美術教育・松永拓己准教授と松永研究室、美術科1年生から大学院2年生の有志28人。



巨大な壁に向かって下絵を描くのも初めての経験。大胆かつ繊細に仕上げていく

今年5月中旬の土・日曜の2日間、アートパフォーマンスを繰り広げながら完成させました。

この企画は、平成19年4月に熊本大学が熊本市と提携した「包括的連携協定」の一環。閉館した旧産業文化会館の壁面を、熊本をモチーフにした絵画で彩ることで、街に華やかな賑わいを与えたいという市からの要請に応え、実現しました。シャッター、壁面、ガラス面を5つのグループに分けて担当。グループは、主に学年を越えた縦割りで構成し、ふだんはあまり交流のない先輩・後輩がそれぞれの得意分野を生かして、共同で制作に取り組みしました。

学生代表・大学院2年生の山下浩司さんは制作当日の全体進行を指揮。2日間



という短期間で、これまでに取り組んだことのない巨大な作品を仕上げるプレッシャーは大きかったといいます。「人物花、背景など、それぞれが得意とするモチーフを分担。いつもは頼りない後輩たちが、この時は本当に頼もしかった」と、当日を振り返ります。年の差やキャリア



妥協を許さず、厳しく指導する松永准教授。学生たちの頑張る姿を見つめる目は温かい



ガラスの裏面から体全身を使って描く“ガラス絵”。下絵とは逆向きになるので難しい



リーダーの山下さんは、夏目漱石が描かれた壁画を担当

を越えて、互いの才能を認め合ったからこそ、素晴らしい作品に仕上がったのです。

負荷を乗り越え、才能が覚醒

この壁画は、2つの技法で描かれた作品を楽しめます。壁面とシャッターは、油絵の技法を用いて油性の絵具を重ねた絵画。ガラス面は、ルーミアア近辺に17世紀ごろから伝わる西洋画の伝統技法を用いた「ガラス絵」。ガラスの裏面からアクリル絵の具で描かれており、まるでステンドグラスのような美しい光彩を放ちます。この技法は民族工芸などで用いられることが多く、日本で巨大な作品を見る機会は、ほとんどありません。そこで松永准教授は、めったに経験することのない巨大な「ガラス絵」に、学生たちを挑ませました。

学生たちは日々、体験しない能力以上の負荷を与えられたことで、これまで学んできた基礎学力や才能を覚醒させ、松永准教授はその成長ぶりに目を見張ったそうです。誇らしげに学生たちを見守りながら、期待に胸を膨らませていました。

現在もこの企画は進行中。8月上旬までに、建物の外周約90メートルの壁面に学生たちの絵画で彩られていきます。



熊本を「森の都」と呼んだのは夏目漱石。自然と肥後山茶花(さざんか)に囲まれて、「猫」と会話を楽しんでいるようだ



子どもたちに自然環境保護の意識が芽生えるようにと、体験学習が行われている

体験学習をサポート 地域連携で叶える 楽しい自然教室

ダイビング部



写真左から、部員の林さん、岡野さん、滝野さん

白川漁協の取り組みに共鳴 積み重ねたスキルを提供

今年で発足して22年目を迎えるダイビング部は、日頃から海や川に潜り、水の中に棲む生き物や植物などの観察を行っています。水の中をのぞくことで自然環境の変化が見えると、部員たちは口をそろえます。

昨年8月、白川漁協と熊本県立大学ダイビング部、熊本大学ダイビング部が連携して、熊本市立託麻北小学校の児童を対象に、白川での体験学習を行いました。白川漁協は以前から、白川でアユの放流や子ども向け川の自然教室を開催するなど、さまざまな活動に取り組んでおられます。そこで部員たちは、「日ごろからクラブ活動で、水の中に入るための訓練をしているのだから、何かと手伝えるのではないかと、協力することになりました。

水中の生物を目の当たりに 歓声上がる連携事業

また同じく昨年の9月には、「黒髪小学校と熊本大学連携事業」の一環として、黒髪小学校の児童たちを対象とした白川での体験学習を開催。25名の子どもたちが参加し、さまざまな体験にトライしま



清流の女王と呼ばれるヤマメが、白川で育っている。白川の水の美しさを知り、子どもたちもびっくり

**子どもたちを守り、導く
貴重な経験に部員らも成長**

部員たちにとっても地域と連携した取

大学生が勉強の楽しさやコツなどを教える学習支援は、地域と提携した教育の新しいカタチとして、さらなる展開が期待されています。

した。コーディネーターを務めたのは部の顧問で、教育学部附属教育実践総合センター長の木村正治教授。川に棲む生物について学んだ後には、実際に水中の様子を観察しました。ライフジャケットを身に付けて潜り方を習う子どもたちの表情は真剣そのもの。ヤマメやカワガニなど身近な場所に生物がいることを知った子どもたちからは、歓声が上がリ、生き生きと川に親しんでいました。これらの体験が、白川や自然を大切にすることを育てています。



ひざまで川につかって、初めての投網体験。何度も何度もがんばって、獲れたのが小さな魚でも子どもたちは大満足だ

8月には託麻北小学校の児童と体験教室を開く計画です。これまでの反省を生かして、保護者も一緒に参加できるメニューを計画しています。

体験教室を開くために、各方面との打ち合わせや準備をするのは大変です。しかし、これからの子どもたちと魅力ある事業を開催していきたいと、部員たちは意欲的。今年



体験学習は、川にもぐる楽しみを教えてくれる。自分の手で捕まえた獲物を手に、うれしそうな笑顔がこぼれた



黒髪小学校との連携事業で、コーディネーターとして奔走した教育学部附属教育実践総合センター長・木村正治教授



川に浮かべた船で、子どもたちを対岸に漸渡りする。船に乗るのが初めての子どもいて、みんなの歓声が響いた



子どもたちにとって、ほとんどが初めての体験ばかり。部員たちとすぐに打ち解けて、自由に水遊びを楽しんでいた



安全管理は部員たちの大きな任務。正しいライフジャケットの付け方を教える声にも力が入る



近未来の街を 産学提携で提案

大学院自然科学研究科 建築学専攻 両角・位寄研究室+田中研究室



設計から展示まで総力で実現

大学院自然科学研究科では、「ソーラーパネルのある未来の街」をより多くの人々にイメージしてもらおうと、グラメンッセ熊本（益城町・熊本産業展示場）が計画した、近未来の太陽光発電のある暮らしをバーチャル体験できる模型作りと、その設置・維持管理を行っています。

取り組んでいるのは、自然科学研究科建築学専攻の両角・位寄研究室と田中研究室に所属する大学院生18人。それぞれが各街区の設計、プロジェクト管理、模型作り、配線工事などを担当し、約2ヵ月ほど掛けて完成。2009年2月5日に模型の公開を開始しました。

**太陽光エネルギーを交換
子どもたちに楽しく疑似体験を**

模型は2×2メートルの大きさで、未来の街全体をイメージ。街並みには住宅やビルが立ち並び、どの建物にも屋根の上にはソーラーパネルが設置され、実際に光をエネルギーに変換する仕組みです。鉄道などの縮小模型も、ソーラーパネルから生み出された電気を受けて動きます。実際に展示場に訪れた人々がその様子を体感できるように、懐中電灯の光を模



グランメッセ熊本の2階に設置されている模型。未来の街の様子に、子どもたちも興味津々



上) 実際の模型制作で使用したものと同じソーラーパネルを持つ、プロジェクトリーダーの小島さん(左)と川野さん
下) 模型の設計は、全てシミュレーションを確認しながら進めていく



全員で勝ち取った達成感が宝

型のソーラーパネルに当てると、建物に明かりが灯ったり洗濯物が回転したりする仕掛けで、学習教材としても子どもたちが進んで興味を持ち、分かりやすく学べるよう工夫を凝らしました。

模型は高さ80センチ程度に低く展示。また、ケースに入れずに展示をする構造を取り入れるなど、子どもたちが見やすいようにしています。まさに手が届く距離にある詳細な模型を介して、ソーラーパネルによる発電を疑似体験し、暮らした太陽光エネルギーについて考えることができるのが魅力です。

機械や電気のことなどは分からないことも多く、工学部機械システム工学科の先生から助言も受けました。全体の企画をしたのは川野優美さんと小島拓朗さん。

「電球やモーターを動かすにはどうしたらいいか、わからないことの連続でした。手探りで部品や素材を集め、一歩ずつ進めてきました」と、川野さんは苦勞を振り返ります。定期的な修理や維持管理のため、今も週に1回のペースで、全員が交代でメンテナンスも行っています。

2人が取り組んで良かったと思うことは、1つのプロジェクトを進行させる難しさを知り、体験できたことです。授業や就職活動とも重なるなど、時間的な厳しさもありましたが、やり遂げることができたことの達成感は、18人の学生たち全員の宝物です。

産学提携をさらに高める 後輩たちの活動に期待

「学生プロジェクトだけあって、とても独創的で面白い」「参加型模型な

で分かりやすく、子どもたちがソーラーの仕組みを理解しやすい」「父親がやってみせて子どもが納得するという、親子の交流にもつながった」など、現地を訪れた人々からは納得の声が数多く寄せられました。

川野さんは、「展示自体は来年3月で終了しますが、グランメッセ熊本と熊本大学、そしてソーラーパネルを供給している富士電機システムズとの産学連携をさらに高め、後輩たちが引き続きやってくれると思います」と、今後のプロジェクトの継続に胸を膨らませています。

研究室探訪

Laboratory Exploration

ロボット技術の分野は、20世紀後半から世界中で本格的な研究が始まり、当時は「21世紀になったら、鉄腕アトムのような人間そっくりのロボットが誕生しているかも」と、多くの人々が想像をふくらませたものでした。そして今日では、2足歩行のロボットも誕生。産業ロボットの分野では、人間以上の能力を発揮するものも生まれ、すでに欠かすことのできない存在となっています。

ロボット技術は「機械」や「電気」の技術に加えて、脳に相当するコンピュータを制御する技術など、複数からなる技術の集合体です。原田博之教授の研究室では、人間であれば触覚や視覚などにあたる「感覚器」や、その情報を脳に伝える「神経」の役割にあたる「センサー」と「信号処理」の研究に特に力を入れて取り組んでいます。

民間企業との共同研究で進めている、「アームロボットによる力の加減」の研究では、小さな金属片に対して、ロボットアームで上から擦るような力を加えることで、金属片の反り返り具合と加えた力の関係について調べる実験が行われていました。職人技に代表される人間の微妙な手先の感覚を、ロボット技術へ応用するための基礎として期待されています。

もう一つのテーマが、「人間の腕の動きと同じ動きをするアームロボット」。人の腕に吸盤のようなセンサーを取り付けて、筋肉の動きを測定。この結果をプログラム化し、コンピューターを用いて人の腕と全く同じ動きをするアームロボットを開発しています。

原田教授がこの分野の研究を始めた1990年代には、人間全身と同じような動きをする2足歩行ロボットを目指す研究者が多かったそうです。しかし原田教授は、人間の仕事を部分的に代わる各機能に注目する方針で、これまで研究を進めてきました。これからも「世の中で役立つロボット」の開発に向けて、研究を行っていきます。

原田研究室

工学部

機械システム工学科
ロボット工学研究室

大学院自然科学研究科

産業創造工学専攻
機械知能システム講座

現代では多くの産業が、
ロボット技術によって支えられており、
熊本大学でも関連する研究が進められています。
そこで、今回はその分野の研究に取り組んでいる、
原田博之教授の研究室を訪ねました。



- ◀ アームロボットの動きは、コンピュータ上のプログラムで詳細にコントロールされています
- ↑ 筋肉の動きを読み込むセンサーを取り付けた腕と、全く同じ動きを再現するアームロボット
- ◀ 小さな金属片に対して、アームロボットで上から擦るような力を加える実験の様子





未来のロボットは、 私たちがつくる。👩

原田博之教授(中央)、山口晃生講師
(右)はじめ、大学院生10名、工学部
4年生8名計20名の研究室



エイズ学研究センターウイルス制御分野
滝口雅文教授らの研究グループが解明

高まるエイズウイルスの病原性
現在のワクチン開発戦略に一石



ピペットを使い試薬を調整中

AIDS

Center for AIDS Research



2000年に完成したエイズ学研究センター研究棟

今年4月、「HIV-1がヒトの免疫システムから逃れるために、急速に変異を遂げている」という、同センターをはじめとする国際研究チームの論文が、「英科学誌ネイチャー誌」に掲載されました。

研究チームは、免疫細胞の攻撃から生き延びるよう進化したウイルスの割合が、体の中で高まっているのではないかという仮説を立て、「国立国際医療センター」をはじめ、「オックスフォード大学」などの国際研究グループと共同して、

2800人以上の感染者を調査。エイズウイルスへの攻撃力が高い免疫細胞14種類について分析した結果、調査した世界9カ所全てで、免疫から逃れる変異ウイルスの割合が高くなっていることを突き止めました。

免疫逃避型ウイルスの存在が明らかになったことから、世界的にワクチン開発を停滞させている原因は過去のウイルスを用いた研究にあることや、免疫逃避型ウイルスを念頭に置いた研究が必要だと、現在の開発戦略に一石を投じる結果となりました。

滝口雅文教授がセンター長を務める「エイズ学研究センター」は、国際的に活躍できる若手エイズ研究者の育成と、エイズ研究の世界拠点を目指す「エイズ制圧を旨とした国際教育研究拠点」（拠点リーダー…満屋裕明教授）を提案し、昨年度「文部科学省グローバルCOEプログラム」に採択されており、研究活動だけでなく、若手研究者や大学院生の人材育成の場としても期待が高まっています。

また、これまで毎年行ってきた国際シ

エイズ学研究センターウイルス制御分野には、現在、タンザニア、パングラデシュ、中国、オマーンからの留学生を含む4名の外国人が在籍



ンポジウム「熊本エイズセミナー」も10周年を迎え、若手研究者や大学院生が海外からの研究者と交流できる場として、人材育成に役立てられています。

「エイズ学研究センター」は、日本のみならず世界のエイズ研究の中核を真に担う国際研究拠点としての役割を果たすべく、日々進化し続けています。

サンプルの入ったチューブ(イメージ)



エイズ学研究センター
<http://www.caids.kumamoto-u.ac.jp/>
 グローバルCOEプログラム
 エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点
<http://www.caids.kumamoto-u.ac.jp/aidsgcoe/index.html>

BSL3 (バイオセーフティレベル3) 実験室でのエイズ研究



AIDS Center for AIDS Research

**日本の大学で唯一の
エイズ研究専門の研究センターである
熊本大学エイズ学研究センター**

「エイズ学研究センター」は、日本の大学では初めて、また唯一のエイズに関する研究センターで、1997年に設立。現在では、ウイルス制御分野・病態制御分野・予防開発分野の3分野と、客員分野の流行阻止分野からなり、滝口センター長を中心にして、エイズの免疫的解析を中心とした研究を行っている。

日本で最もエイズの治療実績がある、「国立国際医療センター」の岡慎一エイズ治療・研究開発センター長(ACC)と瀧永博之博士が、流行阻止分野の客員教授・准教授として、エイズ学研究セン

ターの研究とエイズ研究者養成コースの大学院教育活動に従事し、本センターと連携した研究・教育活動をしている。またこれらの連携研究を支援する施設として、東京に熊本大学東京連携ラボを開設している。

グローバルCOE拠点 エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点

昨年度、文部科学省から「医学領域分野のグローバルCOE拠点」(全国で14拠点採択)の1つとして採択され、拠点リーダーの満屋教授のもと、エイズ学研究センターに所属するエイズ学研究者を中心に、国際的に活躍できるエイズの制圧も目指した研究者の養成と、グローバルなエイズ研究をおこなう国際研究拠点を目標して活動している。

本拠点では、若手研究者・博士課程大学院学生が、海外の連携研究室(OLL)で研究活動を行うプログラム、毎週外国人研究者・留学生を含めて英語で研究発表し討論するプログラム(WYIS)、国際シンポジウムである熊本エイズセミナーに参加し英語で発表するなど、若い人が国際的に活躍できる人材になるための多種類のプログラムを備えている。



対談

若い時代の留学は “一生の宝”

教育学部 4年

村上明子 × 古川憲治

副学長(国際交流担当)

熊本大学では、世界25カ国、87の教育研究機関と提携を結び、国際交流を進めています。アメリカ・パシフィック大学での10カ月の留学を終えて帰国したばかりの村上明子さんと、今年度から国際交流担当を務める古川憲治副学長が、「留学の魅力と国際交流」について対談しました。

厳しい！海外での語学力

古川 村上さんの留学目的は何だったのですか、最初に語学研修のようなものを受けたのですか。

村上 小学校の教員採用に英語枠があることを知り、英語をもっと学びたいと留学を決めました。1年生の頃からすでに留学に興味があり、国際課に通って情報を集めたり、先輩からTOEFLのことを聞いて勉強したりしていました。550点のレベルで留学したんです。

古川 向こうに行つて語学力はどうでしたか？

村上 全然足りませんでした。寮のルームメイトにわからないことを聞いた

かったですね。長期の休暇で寮にいることができない期間は、彼女の家にホームステイさせてもらい、現地の暮らしにもふれることができました。

古川 私も1981年にドクターの学位を取得後、客員研究員としてスイスのチューリッヒ工科大学に1年間滞在しました。チューリッヒはドイツ語圏で、私が学んだ第2外国語がドイツ語だったことや、現地の人々の第1外国語が英語ということもあり、コミュニケーション

はとてもうまくいき自信を持ったんです。ところが、ロンドンに旅行にいったら英語が通じない。地下鉄に乗ろうとして、アフリカ系の駅員に窓口で料金がいくらか尋ねたのですが、その数字が聞き取れ



留学先の教室でクラスメイトとともに。写真中央が村上さん

なかつた。実際現地に行くと力不足を感じましたね。留学して良かったと思うことは？

村上 パシフィック大学には、いろんな人種の人々がいたのですが、そのほとんどはアメリカ国籍を持っており、日本人はそう多くいませんでした。そんな全く違うバックグラウンドの人々と話ができ

たこと。日本では考えられないような人生を歩んできた人々が多くいて、そのことを特別なことと感じていないこと

人と人をつなぐ留学

古川 私は、当時留学したころの人のつながりを大事にしている、今でも親しく

しています。村上さんは友人関係はどうでしたか？

村上 友だちはたくさんできました。私

が話すのをゆっくりと待ってくれるような優しい人ばかりで、たくさん助けてもらいました。

古川 「自分の目の前を何度も通つた人は縁のある人だから、大切にしない」というのが私のポリシー。村上さんも機会をつくり一緒に学んだその仲間を訪ねて、今後も国際的な関係を築いていくと良いですね。

村上 はい。交換留学だったので、私と入れ替わりで熊本大学に来ている留学生

がいます。アメリカやパシフィック大学のことを話して、情報を共有できるのもうれしいです。
古川 現在、熊本大学には外国からの留学生が306人(2009年5月現在)在学しています。今年の4月に就任された谷口新学長が掲げる目標に、「熊本大学はグローバルなアカデミックハブを目指す」というものがあります。現在は300人余りの留学生を、数年の間に500名へ、そして10年後には1000人が学ぶ大学にするというものです。

もう一度行きたい

古川 現在の熊本大学は中国からの留学生が約4割です。最近是中国でも、第1外国語に英語を選択する人が増えてい

ます。そこで自然科学研究科では、大学院

International exchange Report

国際交流レポート／平成21年3月～21年5月

3月13日 / 韓国・仁川大学校一行来学

18日 / タイ大使館公使参事官来学

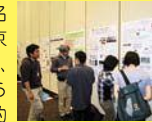
23日 / 韓国・韓南大学校法科大学、熊本大学法学部・法科大学院共同学術シンポジウム「韓国と日本の司法過疎の現状と課題」を韓南大学で開催



4月7日 / 国際化推進センターオリエンテーション(8日まで)／国際課ミニシンポジウム「留学のススメ」を開催しました

8日 / 中国・大連理工大学一行来学

9日 / 熊本大学グローバルCOE「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」が、Academia Sinica(台湾中央研究院)とのジョイント国際シンポジウムを開催しました(10日まで)／台湾のトップ研究機関であるAcademia Sinica(台湾中央研究院)から、6名の研究者と、国内からは東京大学から2名の研究者を迎え、「細胞系譜制御:分子基盤から臨床応用へ」をテーマに、約100名が参加し2日間の日程で開催されました。招待演者らによる口頭発表(15件)のほか、大学院生を含む若手研究者によるポスター発表(38件)が行われ、活発な討論・交流が行われました



13日 / 法学部教員による、カリフォルニア州立大学サクラメント校政策協働センター(Center for Collaborative Policy)視察訪問／伊藤洋典教授他3名が視察訪問し研究交流を深めました

22日 / 韓国・ソウル市立大学学長来学

5月9日 / 熊本大学消化器外科「川原尚行先生講演会」を、医学部総合研究棟において開催／NPO法人ロシナンテスを立ち上げ、スーダンで医療活動を中心とした講演に、学内外から180名近い参加がありました

13日 / 熊本大学グローバルCOEプログラム「衝撃エネルギー工学グローバル先端拠点」で推進中のリエゾン・ラボが、トルコ・エーゲ大学に設立されました



Support

国際化推進センターでは、熊大生の留学や海外活動に関して、さまざまな支援を行っています。

【留学を希望する学生への支援】

- 熊本大学TOEFL講座
- 新入生向け留学フェア(留学のススメ)(4月上旬)
- シリーズ留学説明会(5月～7月)
- 海外留学オリエンテーション

【海外で活躍する学生への経済支援】

- 熊本大学国際奨学事業
海外での学習・研究活動に奨学金を提供
- 熊本大学海外語学セミナー
参加費の一部を熊本大学国際奨学事業より補助

は学部でも、英語対応のプログラムを用いるマスターとドクターの授業を、全て英語で行う試みも始まりました。将来的には学部でも、英語対応のプログラムを用



写真左から、村上さん、古川副学長。さまざまな体験話で盛り上がった対談の様子

意することで留学生をさらに増やします。キャンパス内の共通語が自然に英語となり、日本人の学生も熊本大学を卒業するころには、国際的な人材になっているようにと考えています。

村上 私アメリカ留学したように、世界から日本へ留学する学生が一層増えるということですね。

古川 そうですね。少子化で学生が減る中、例えば東南アジアの学生に学んでもらい、日本で働いてもらう。彼らが日本の活力となって地域貢献にもつながります。熊本大学は、これからアジアのハブとなつて交流を深めて行こうと、国際交

流を推進しているわけです。村上さんはパシフィック大学でどんな授業を受けていたのですか？

村上 バイリンガル教育や言語学など、好きな科目を選びました。カリフォルニアの歴史なども勉強しましたが、宿題が多くて。読むのに時間がかかるものから、いつも宿題ばかりしていました。

古川 村上さんの夢は何ですか？

村上 将来の夢に向けて、今は7月に行われる教員採用試験の勉強中です。小学校教員養成課程主専攻ですが、中学校英語の試験に挑戦します。帰国してみると英語を話す機会が少ないので、いつかア

メリカでもう一度英語の勉強をしたいとも思っています。

古川 卒業して何年か経って大学に来てみてください。キャンパスを歩けば、外国人の学生とよくすれ違うような、国際的な風景になっていると思いますよ。

Profile:

村上 明子(むらかみ・あきこ)
教育学部4年小学校教員養成課程。
2008年8月より、アメリカ・サンフランシスコから車で約2時間のパシフィック大学に留学し、今年5月末に帰国

古川 憲治(ふるかわ・けんじ)
大学院自然科学研究科教授。
2009年4月より熊本大学副学長。
新設された「国際化推進機構」の中核組織「国際化推進センター」センター長を兼任

卒業生ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、全国で活躍する先輩たちの
これまでの歩みや苦労、そして喜び、楽しみなどを通して
精励するその姿をご紹介します。



小池 尋之 Hiroyuki Koike



株式会社くすりのハーモニーことひら薬局（熊本）勤務
薬学部薬科学科・平成10年度卒 / 大学院薬学研究科薬科学専攻・平成12年度修了

卒業後は病院勤務を経て、平成16年9月から現職に就いています。主に保険調剤業務で、医療機関から発行された処方箋に基づき薬を準備し、患者さんに薬の内容を説明して渡したり、薬に関する問い合わせや相談に応じています。

私は4年次以降、配属された研究室で多くの時間を過ごしました。またサークルでは、サッカー、飲み会、旅行などを満喫しました。在学生の皆さんには、ぜひ、学生の本分を忘れることのない程度に、思う存分好きなことに時間を費やしてもらいたいです。多くの人と接点を持つ努力は、決して無駄にはなりません。



小川 弘美 Hiromi Ogawa



株式会社西日本シティ銀行（福岡）勤務
法学部法学科民法専攻・平成16年度卒 / 大学院法学研究科民法専攻・平成18年度修了

個人のお客様に対する各種ローン(マイカー、教育、住宅など)の提案、相談受付から実行手続きまでを行っています。特に、一生の買い物とされる住宅ローンでお客様の期待に応えることができたときには、やはりやりがいを感じます。

当行には、通信教育や各種資格取得など自己啓発に対する評価制度として、ポイントゲッター制度というものがあります。入行してから現在まで、およそ2カ月に一度の割合で各種試験を受け続けた結果、前期はポイントゲッター高得点者に選ばれ、人事部長賞をいただきました。今もなお勉強中です。



西村 渉 Wataru Nishimura



株式会社ワークヴィジョンズ（東京）勤務
工学部環境システム工学科・平成13年度卒 / 大学院自然科学研究科環境土木工学専攻・平成15年度修了

在学中はよく旅行に出掛けていて、特に九州内は時間があれば車で回り、地球2周分ぐらいは走りました。その旅先で見る風景に興味を持つようになったこと、また講義で景観工学と出会ったのが、今の自分のルーツになっています。現在勤務している設計事務所では建築の設計・監理だけでなく、街路や広場、河川、橋梁といった公共施設のデザインや、景観計画・設計なども手掛けています。デザインの提案、使用する材料の吟味、設計図作成など忙しい毎日ですが、モノができあがった時の感動と使う人たちの喜ぶ笑顔は、一度見たらやめられませんね。



杉崎 勢 Sei Sugisaki

植木町立植木北中学校（熊本）勤務
教育学部中学校教員養成課程国語科・平成20年度卒



小学6年生のころに教師になることを決め、その夢に向かって、ひたすら真っ直ぐに進んだ学生時代。大学3年時の教育実習で生まれて初めて授業をし、生徒と関わっている教師という職業の楽しさを実感する一方で、一つの授業を成立させる難しさを痛感しました。現在は2年生の学級と1、2学年の国語を受け持ち、生徒指導、教科指導など、子どもたちの教育に関する業務を日々行っています。今はまだ、仕事に慣れることで精一杯。少しずつ時間を見つけて、自らの人間性を高めていける活動をしていきたいと考えています。



中村 政明 Masaaki Nakamura

国立水俣病総合研究センター（熊本）勤務
医学部・昭和62年度卒 / 大学院医学研究科内科系専攻・平成8年度修了



大学院在学中は、研修医時代に経験した「球脊髄性筋萎縮症」の症例から、運動ニューロンに興味を持ち、運動ニューロンに関する基礎研究を行いました。卒業後は、「家族性アミロイドポリニューロパチー」の病態解析および遺伝子治療などの研究や、熊本病院中央検査部遺伝子検査室の立ち上げに努めました。現在は、国立水俣病総合研究センターで総合臨床室長を務めながら、水俣病の研究を行っています。研究に明け暮れる一方、日本の戦国時代の武将に大きな関心があるので、歴史に関する読書やNHK大河ドラマを欠かさず見るようにしています。



小松 祥子 Shouko Komatsu

ソニーグローバルソリューションズ株式会社（東京）勤務
文学部地域科学科コミュニケーション情報学コース専攻・平成20年度卒



在学中はマスメディア、コミュニケーションなどを中心に、企業×消費者コミュニケーションを専攻。そのほか議員インターンシップに参加したり、市長選挙を手伝ったりと、自分の好奇心に素直に、さまざまなことに挑戦しました。現在は大学の専攻とは全く違う、管理会計の仕事をしています。会社の損益を分析し、今後の経営方針を策定する重要な部署です。コストや利益として出た数字の裏に何があるのか、なぜそうなったのか、日々考えて仕事を楽しんでいます。会計素人で苦労することも多いですが、大学時代の経験が糧となっています。



河崎 敏広 Toshihiro Kawasaki

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所（静岡）勤務
理学部生物科学科・平成11年度卒 / 大学院自然科学研究科 物質・生命科学専攻・平成18年度修了



私にとって在学中に学んだ最も大切なことは、「自由に発想し、主体的に考え、責任持って行動すること」です。卒業研究を通してこのことをしっかりと学べたことが、私の人生の転機になりました。現在は、ゼブラフィッシュという小さな魚を用いて、遺伝情報を自在に改変した魚を作るための、技術開発を行っている研究室に在籍しています。精子の種ともいえる幹細胞に実験操作を行い、これを精子にまでする技術の開発に取り組んでいます。また、研究成果を国内外で発表する際に必要な、英語によるプレゼンテーション能力の向上にも取り組んでいます。

細川家所蔵の一級資料を一堂に 「永青文庫研究センター」開設



財団法人永青文庫所有の細川家の歴史資料の寄託を受けて、その研究の核となる「永青文庫研究センター」が4月にオープンしました。

我が国随一の大家資料の研究機関として センターを発足

2009年4月、熊本大学文学部附属「永青文庫研究センター」が開設されました。明治維新後、細川家所有の歴史資料群の多くは熊本市北岡にある細川北岡邸の倉庫へと移され、保管されていました。寄託形式で熊本大学に移管されることが決まったのは1964年。北岡邸の「御文庫」「川端御蔵」「御神庫」「御宝庫」

「七間御蔵」に収蔵されていた貴重な歴史資料は、熊本大学附属図書館貴重書庫保管されることになりました。その数は数万点にも及びます。そして、財団法人永青文庫や文化庁、熊本県との協働の下、研究事業と文化事業の二つを柱とする同センターがついに完成したものです。

熊本大学附属図書館寄託 永青文庫史資料群の概要

同センターが架蔵する細川藤孝（幽齋、1534～1610）をはじめ、歴代当主の書物や美術品、そして藩政にまつわる資料群は、次のように大別されます。

- ① 藩主御手元史資料群
- ② 藩主御手元書籍群
- ③ 藩政関係史料群
- ④ 絵図・指図群
- ⑤ 未整理文書群
- ⑥ 近代史資料群

学術的価値の解明と学会への提起 さらに広く市民に情報を発信

熊本大学文学部では、高度な学術研究活動を行い、その知的資源を地域社会へ還元するとともに、研究者などの人材育成に努めています。そこで、文学部を中心に行ってきた永青文庫資料に関する研究体制を発展させ、さらに積極的な研究教育活動が継続できるような組織づくりを進めようと、同センターを設置。地域文化振興に貢献し、研究および文化

振興の発展に寄与する人材育成がスタートしました。

同センターでは、毎週月曜にはスタッフが集まり、会議で研究の進捗状況を確認したり、ディスカッションを行っています。資料群の学術的価値の解明などに取り組む研究事業や、広く市民に発信するため、さまざまな文化事業を推進。新たな一歩を踏み出しています。

永青文庫研究センター 活動内容

■ 研究事業

- ① 永青文庫史資料群総目録の作成と全体像の解明
- ② 歴史資料、文学資料、絵図・地図資料などの出版事業
- ③ 永青文庫史資料に基づく拠点的研究の組織に関する諸事業

■ 文化事業

- ① 研究事業の成果を反映した市民向けフォーラム、公開講座の実施
- ② 永青文庫史資料などの公開展示
- ③ その他、永青文庫史資料による地域文化創造に資する事業



5月、文学部創立30周年記念事業「永青文庫研究センター設立記念講演会」が、来賓に細川佳代子氏を迎え、開催された



江戸幕府が細川家に出した古文書を読み解く稲葉隼隆教授。中には、血判が押された文書もあり、当時の思いが偲ばれる



およそ400年前の古地図など、さまざまな資料を調べていく。研究のほか、保存・修復も大きな柱となっている

ワンコインから選べる検査メニュー カフェ感覚で気軽に健康チェック!



検査券は、定食を選ぶかのように簡単に購入できる。500円～4,300円のメニューがそろそろ

今年2月2日、熊本大学医学部附属病院の中央検査部にオープンした、全国初となる「検査カフェ」をご紹介します。

昨年4月から特定検診（通称：メタボ検診）がスタートし、健康・検査に関する人々の関心が高まってきました。そんな中熊大病院は、カフェ感覚で気軽に健康チェックができる「検査カフェ」をオープン。「お酒の飲み過ぎが気になる方700円」「痛風が気になる方500円」「血糖値が気になる方800円」など、手頃な費用でチェックができる、13の検査メニューがそろっています。

“カフェ”と名が付くだけあって、検査はとっても簡単です。自動販売機で希望の検査券を購入し、簡単な問診に答えて採血をするだけ。たったの10分足らずで終わります。「仕事を休んで健康診断を受けるのは…」と、これまでお尻の重かったビジネスマンなどが、短時間で健康チェックを行うことができるようになりました。

病気になると、血液中の物質やホルモンバランスが崩れ、異常値を示します。それを詳しく分析することで、病気の早期発見につながります。

“ワンコイン程度で分かるデータはたかが知れている”と思われがちですが、国際規格ISO15189の認証を取得した臨床検査室で、日本でも数少ない優れた機器による細かい分析を行います。さらに、検査データを専門的に分析する日本臨床検査医2名と、各分野の専門技師による週1回の判定会議で、多角的な視点から討議を行い、一人ずつの結果を分析・判断します。

「検査カフェ」を気軽に利用してもらうことで、病気の早期発見や予防への意識が高まることが期待されます。これからも、検査メニューは増えていく予定です。ぜひ、皆さんも健康チェックをしてみませんか？

検査カフェのご利用方法

【受付】中央診療棟3階
生理機能検査室受付

【受付時間】月曜日～金曜日
10時～16時

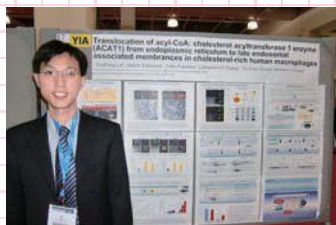
- ① 券売機でご希望のセットをお求めください。
- ② 生理機能検査室受付で検査カフェ申込書にご記入のうえ、受付にお出しください。
- ③ 中央診療棟4階の採血コーナーへお越しください。
- ④ 採血が済まれたら、そのままお帰りください。
- ⑤ 検査専門医が判定し、1週間程度で検査結果を郵送でお届けします。



ISO15189認証の臨床検査室で検査・分析されたデータは、国際基準



「国際動脈硬化シンポジウム」において、 本学から2名が「若手研究者学術研究賞」を受賞!



雷 小峰さん



小西 正紹さん

6月14～18日にかけて、アメリカ・ボストンで開催された「国際動脈硬化シンポジウム (International Symposium on Atherosclerosis 2009; ISA2009)」において、本学から2名が「若手研究者学術研究賞

(Young Investigator Award; YIA)」を受賞しました。

同学会は、心筋梗塞や脳梗塞の原因として注目されている動脈硬化症に関する国際学会で、3年に1度しか開催されない、この分野における世界最大規模の国際学会です。

今回は、1,500余りの演題中46演題がYIAとして選ばれましたが、日本からは7演題のみ。そのうち2演題が本学より選ばれたことは、医学薬学研究部における基礎、臨床医学研究のレベルの高さが国際的に認められたともいえます。

受賞者: 大学院医学教育部博士課程4年

雷 小峰(らい しょうほう)

受賞者: 医学部附属病院循環器内科医員

小西 正紹(こにし まさあき)

第1回熊本大学X-Earthセンター 市民向け講演会 「地球を丸ごと見てみよう —未来を貫くエックス線CT—」



X線CTが、科学のあらゆる分野で広く活用されていることを、子どもたちにもわかりやすく紹介。

日時/7月25日(土) 13:00~17:00

場所/工学部百周年記念館

※事前申込および参加費不要

【問い合わせ】

熊本大学埋蔵文化財調査室

X-Earthセンター市民向け講演会係

Tel.096-342-3832

第1回 エコファーマシンポジウム

公害病の原点に立ち戻り、環境と福祉、国際性を視点に、これからの大学の対応と果たすべき役割、薬学の進むべき道について考えるシンポジウム

日時/7月28日(火) 13:45~17:30

場所/薬学部宮本記念館

コンベンションホール

※事前申込および参加費不要

【問い合わせ】

薬学部環境分子保健学

高濱和夫・白崎哲哉

Tel.096-371-4335

工学部の「まちなか工房」が、 「日本まちづくり大賞」を受賞!



表彰を受ける両角工学部長と溝上まちなか工房代表(右奥)

NPO日本都市計画家協会は、全国の広範なまちづくりの取り組みの中から、優れた理念を持つ活動や計画・プロジェクト等に対し、日本都市計画家協会賞として表彰をしています。

工学部の「まちなか工房」は、これまで4年数か月にわたる取り組みが評価され、6月20日、第7回日本都市計画家協会賞候補28件の中から、最高の賞である「日本まちづくり大賞」を受賞しました。

平成17年度に、文部科学省の特別教育研究費の採択を受けて「ものづくり創造融合工学教育事業」として始まったこの事業は、想像力やものづくりの感性豊かな科学技術者やデザイナーを多く育成しようというものです。

今回は、毎年活動を創造的に発展・深化さ

せ、具体的な成果を継続的に生み出し、都心の活性化に大きく寄与していること。まちなかのサテライト拠点を中心に、大学が研究教育とまちづくりを連動させ、多様な人材が継続的に活動することで住民や商業者に信頼を得ていること。大学・地域連携のベストプラクティスの一つとなりつつあることが評価されたものです。

ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室～ KAKENHI in 熊本大学

高校生を対象に、世界最先端の研究に関する講義や、実験を体験してもらいます。

日 時／8月11日(火)・12日(水)
9:30～16:30
ただし2日目は9:45～

場 所／熊本大学工学部
※事前申込必要・参加費不要
※申込締切7月26日(日)

【問い合わせ】

大学院自然科学研究科 准教授 佐々木 満
Tel.096-342-3666 or 3665
E-mail: msasaki@kumamoto-u.ac.jp

みなまた環境塾 「第3回シンポジウム」

「みなまたの海との共生」をテーマに開催される、みなまた環境塾において、循環型社会の構築に貢献できる人材養成および取り組みを紹介。

日 時／8月29日(土) 13:30～17:00
場 所／あらせ会館(水俣市)

※事前申込必要(ただし当日参加も可能)・参加費不要

【問い合わせ】

水俣市商工観光振興室 Tel.0966-61-1628
または、熊本大学大学院自然科学系事務部
Tel.096-342-3530

公開シンポジウム 「地域水循環を踏まえた 地下水管理のあり方」

地下水管理の現状と課題や、持続的な水量・水質維持管理を実践している秦野市と熊本市を題材とした、地域地下水管理に関するシンポジウム。

日 時／10月4日(日) 12:30受付開始
13:00～17:00

場 所／工学部百周年記念館
※事前申込不要

【問い合わせ】

大学院自然科学研究科 嶋田 純
Tel.096-342-3419
E-mail: jshimada@sci.kumamoto-u.ac.jp

夏休み自由研究相談教室



日 時／8月2日(日) 9:30～ 13:00～

場 所／教育学部理科棟1F 102教室

対 象／小学生(保護者同伴)、中学生、小・中学校教員

※事前申込必要(7月29日〆切)／参加費不要

【問い合わせ】

教育学部地学図書室 笠井
Tel.096-342-2539 Fax.096-342-2539

第28回 混相流シンポジウム

九州エリアにおける環境保全と、新エネルギーをテーマとしたシンポジウム。演題は「バイオテクノロジーを駆使した資源循環型プロセスの構築と地域の活性化」など。

日 時／8月8日(土) 9:30～11:55

場 所／工学部2号館 223講義室

※事前申込不要

【問い合わせ】

大学院自然科学研究科 川原・佐田富
Tel.096-342-3757

中学校および高等学校における 遺伝子教育研修会

中学・高校の理科教員を対象に、教育現場で、遺伝子やその技術についての正しい知識を伝えることを目的とした研修会。

日 時／8月10日(月)～12日(水)
9:30～17:00

ただし10日のみ9:45～

場 所／熊本大学生命資源研究・支援センター
遺伝子実験施設

※事前申込必要
(3日間とも参加できる方優先)

【問い合わせ】

熊本大学生命資源研究・支援センター
遺伝子実験施設
Tel.096-373-6501 Fax.096-373-6502
E-mail: www@gtc.gtca.kumamoto-u.ac.jp

みなまた環境塾 「第7回イブニングセミナー」

循環型社会の構築に貢献できる人材養成と海外への情報発信のため、諸外国の環境問題を学びます。

日 時／7月29日(水) 18:00～20:00
場 所／みなまた環境テクノセンター

(水俣市)

※なるべく事前の申込みをお願いします

【問い合わせ】

みなまた環境テクノセンター
Tel.0966-62-0639
または、熊本大学自然科学系事務部
Tel.096-342-3530

公開講座「数学へのいざない」

主に高校生を対象に、数学はといった何の役に立つのか、学校で習う数学の先にはいったい何があるのかを伝える公開講座。

日 時／7月30日(木)・31日(金)の2日間
14:00～17:00

場 所／大学院自然科学研究科棟3F
数理演習室

※事前申込必要(7月29日〆切)／参加費不要

【問い合わせ】

大学院自然科学研究科 原岡 喜重
Tel.096-342-3323(研究室)
Tel.096-342-3331(数学事務室)
Fax.096-342-3341
E-mail: haraoka@kumamoto-u.ac.jp

中学生を対象とした 夏休みの自由研究に関する 技術相談会



“新素材の不思議な性質”、“電池のしくみ”、“人工雪をつくる”などの催しと、将来の科学者や技術者を目指したい中学生の相談会を行います。

日 時／8月1日(土)・2日(日)
9:00～17:00

場 所／工学部百周年記念館

※事前申込必要(7月21日〆切)・参加費不要

【問い合わせ】

工学部技術部 山室 Tel.096-342-3518
E-mail: yamamuro@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学オープンキャンパス

平成21年8月7日(金)開催 **当日自由参加**

オープンキャンパスでは、各学部の説明や模擬講義・研究室等公開以外にも、見どころ満載です。

「在学生による座談会」では、受験勉強や大学生活のアドバイスを、「サークル紹介」では活動内容について、先輩達から直接話が聞けます。また、キャンパスツアー(黒髪キャンパス)や、国の重要文化財である「五高記念館」を公開します。

黒髪キャンパス

■ 文学部

開催時間 / 13:00~16:30
集合時間 / 12:50まで
集合場所 / 全学教育棟正面玄関
説明会場 / 全学教育棟C301教室・E107教室・E205教室・E305教室

■ 教育学部

開催時間 / ①10:00~12:00 ②13:00~15:00
集合時間 / ①9:15~9:45 ②12:15~12:45
説明会場 / 教育学部 各講義室他
※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください。

■ 法学部

開催時間 / ①10:00~12:00 ②13:30~15:30
集合時間 / ①9:50まで ②13:20まで
集合場所 / 文・法学部B1教室
説明会場 / 文・法学部B1教室
※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください。

■ 理学部

開催時間 / 10:00~15:00
集合時間 / ①9:50 ②12:50
集合場所 / 理学部玄関前
説明会場 / 理学部 D201教室・C122教室・C226教室・各研究室他

■ 工学部

開催時間 / 9:30~15:10
集合時間 / ①9:00~ ②13:00~
集合場所 / 工学部2号館 1階ロビー
説明会場 / 工学部2号館教室 他

本荘・九品寺キャンパス

■ 医学部医学科

開催時間 / 13:00~15:30
集合時間 / 12:50まで
集合場所 / 医学科 医学教育図書棟第一講義室
説明会場 / 医学科 医学教育図書棟第一講義室

■ 医学部保健学科

開催時間 / ①10:00~12:10 ②13:30~15:40
集合時間 / ①9:30~ 9:50 ②13:00~13:20
集合場所 / 保健学科玄関ロビー
説明会場 / 保健学科 C503講義室・A307講義室・A312講義室
※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください。

大江キャンパス

■ 薬学部

開催時間 / 13:00~15:30
集合時間 / 12:00~12:45
集合場所 / 薬学部正面玄関
説明会場 / 薬学部多目的ホール 他
※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください。
※オープンキャンパスとは別に「薬学部説明会」を8月8(土)に開催いたします。
内容は、ほぼ同一ですので、1年生および近郊の高校生はオープンキャンパスではなく「薬学部説明会」にご参加下さい。

同時開催

九州地区国立大学進学説明会 10:00~16:00

地元熊本に居ながら、他県の各国立大学の様々な入試情報を得るチャンスです。皆さん奮ってご参加下さい。

個別相談ブース

各国立大学の職員が直接相談・質問にお答えします。

資料配布コーナー

各国立大学の大学案内等の資料を配付しています。

参加大学(予定)

山口大学・九州工業大学・福岡教育大学・九州大学・佐賀大学・長崎大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・鹿屋体育大学・琉球大学・熊本大学 (以上12国立大学)

【問い合わせ】

熊本大学学務部入試課 Tel.096-342-2146 Fax.096-345-1954
E-mail: nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp URL <http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

平成21年度公開講座

対象者	講座名	開講日	受講料
一般社会人	明治くまもと文学散歩	10月3日 (全5回・5日間)	¥7,200
一般社会人	野の花と遊ぶ	9月19日開講 (全7回・4日間)	¥9,200
一般社会人・学生	映画の魅力を楽しむ	10月10日 (全4回・4日間)	¥6,200
一般社会人	健康で幸せなおもてなしを考えよう	9月12日開講 (全6回・6日間)	¥9,900
看護関係者	インストラクショナルデザインセミナー	11月14日開講 (全2回・2日間)	¥8,700
看護関係者	看護診断セミナー	10月13日開講 (全2回・2日間)	¥8,700
団体・組織のリーダー	リーダーシップ・トレーニング(東京会場)	9月16日開講 (全3回・3日間)	¥9,900

【問い合わせ】 研究・国際部社会連携課
Tel.096-342-3121 Fax.096-342-3239



平成21年度授業開放

熊本大学の正規の授業を、学生と一緒に受講してみませんか。

期 間／10月～平成22年3月

場 所／熊本大学各学部等

受講資格／高等学校卒業程度の学力を有する方

募集締切／8月28日(金)

※科目毎に受講料が必要です。

※50科目以上の多彩な分野の授業が開放され、教養を深めたり専門的な学習もできます。

【問い合わせ】

研究・国際部社会連携課

Tel.096-342-3121

Fax.096-342-3239

E-mail:manabou@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.6(平成21年3月1日～5月31日)

卒業生、在学生の保護者、名誉教授の方々をはじめとした皆様から、平成21年5月31日現在で、総額約2億3,424万円のご寄附をいただきました。皆様のご協力を厚く御礼申し上げます。

今号では、平成21年3月1日から5月31日までの間に、ご入金を確認させていただきました個人179名、5法人・団体等のご寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。公

開をご希望されないご寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、ご寄附者で万が一お名前がもれている場合につきましては、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標額を10億円としております。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望されたご寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【200万円】 安倍 一允	【5万円】 緒方 二郎	緒方 洋子	辛島 献次郎	坂本 千秋	首藤 基澄(10)
【100万円】 出田 秀尚(200)	竹口 甲二	中西 良一(7)	馬場 英明		
【23万円】 門築 保	【5万円未満】 荒木 忍	上野 真也(6)	衛藤 光明	草野 龍二	佐藤 貴茂
【20万円】 春田 洋一(120)	下川 浩哉	寺崎 久泰	中村 正人	久留 芳枝	村上 洋一郎
宮川 英明	百崎 謙	百崎 末雄			
【16万円】 小郷 克敏(20)					
【10万円】 菅野 幸裕(20)					

2. お名前のみ掲載を希望されたご寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

秋武 強	有光 克之	井芹 嘉久	井寺 洪太	伊藤 裕子	今井 博昭[2]	今村 雄彦	上田 京二
上田 昭一	上塚 高弘	宇佐美しおり[3]	臼杵 郁子	内田 隆	大隈 邦夫	岡崎 宣子	鬼塚 猷子
神澤 直美	川端 浩文[2]	木村 晴世	木屋 俊行	國友 昭久	合志 正臣	古賀 広志	小林 哲郎
佐古田 毅	佐々木 哲男	鯨島 久美	志賀 大祐	城 康彌[2]	瀬野 照也	曾根 泰子	高橋 将徳
瀧井 一信[2]	竹田 真史	田原 芳馬	田宮 又男[2]	恒成 茂行[2]	津野田 誠	鶴田 一真	手柴 博志
徳臣 晴比古	永田 達也[2]	永松 千秋[2]	中村 功	西川 盛雄[2]	根本 忠昭	根本 ナツメ	萩尾 信敏
萩原 正泰[2]	長谷川 秀[2]	服部 新三郎[2]	服部 正勝[2]	林 達郎	秀島 敏行	廣瀬 増男	藤崎 順子[2]
寶亀 慶子	外村 信次	松本 成子	松本 寿三郎	松本 義信	松山 公士[2]	村上 健太郎[2]	元山 隆士
森沢 昭広	山内 穰滋	山下 和弘	山下 秀隆	山根 茂美	油布 清志		
医療法人伊東Kクリニック		医療法人森下会森下病院		九州電力株式会社			

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されないご寄附者

個人82名、2法人・団体等

ここから始まる未来の設計図

熊本大学 オープンキャンパス

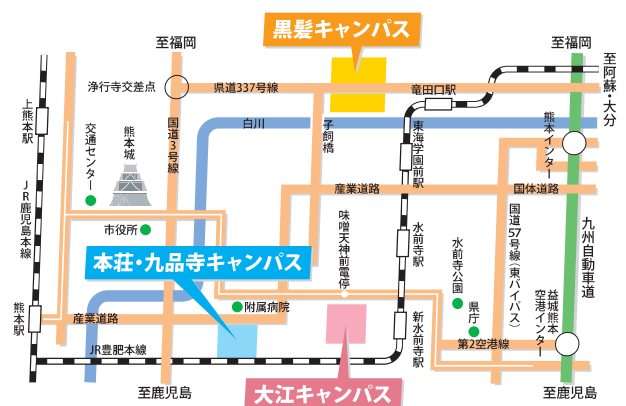


2009.8.7 **FRI**

当日自由参加OK!

 国立大学法人 熊本大学

Kumamoto University



【問い合わせ】

熊本大学学務部入試課 Tel.096-342-2146 Fax.096-345-1954 E-mail: nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp URL <http://www.kumamoto-u.ac.jp/>